

中部学院大学報

PAULOWNIA⁺

ポローニア プラス

CHUBUGAKUIN DIGEST





①初戦で完投したエース宮島拓斗投手 ②チームをまとめる主将の森翔太郎選手 ③初戦で先制のタイムリーを放った江川日那太選手 ④堅実な守備でピンチをしのぐ ⑤得点を加え、歓喜に沸くナイン ⑥スタンドから声援を送り続けた野球部員 ⑦応援に駆け付けた吹奏楽部

1 全日本大学野球選手権ダイジェスト

本学硬式野球部は全日本大学野球選手権に2年連続4度目の出場を果たし、初戦を突破しました。ここでは、写真ダイジェストで振り返ります。(詳細は「クラブ・サークル」にて)

2024 Vol.52 Contents

- P 04 SPECIAL FEATURE 01 災害の学び
- P 06 SPECIAL FEATURE 02 留学生のキャンパスライフ
- P 08 SPECIAL FEATURE 03 キラッと輝く中部学院生
- P 10 CLUB & CIRCLE
- P 12 保護者の皆さまへ
- P 14 TOPICS



表紙写真
関キャンパス2号館の“トピラ”

PAULOWNIAは
中部学院のシンボルである「桐」の英語表記。
かつては大学祭を「ポローニア祭」と呼び、
学生に親しまれてきました。

発行 | 中部学院大学報編集委員会

災害の学び

日本は自然災害が多く、地震や台風などへの備えは欠かせません。本学では、授業やゼミナル活動、ボランティアなどを通じて、災害やその対応などについて学びを深めています。

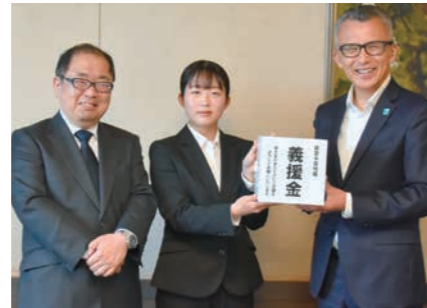


能登半島の被災地支援活動を実施

今年1月に発生した能登半島地震で、本学の被災地支援チームが3月、石川県輪島市で支援活動を実施しました。メンバーは教員6名と人間福祉学部人間福祉学科の学生3名。雨の降る中、個人宅の家具や店舗の片付けの支援を行いました。

同学科4年の森田菜緒さんは「凄惨な状況で衝撃を受けました。少しでも力になりたいと思った」と振り返りました。そのほか「日頃の備えが大切」「実際に見たことや聞いたことなどを身近な人に伝えていくことも重要」などの声が聞かれました。また、両キャンパスに設置した募金箱に寄せられた善意など10万2566円を能登半島地震被災地への義援金として、関市に寄託しました。

そのほか、本学は災害派遣福祉チーム(DMAT)後方支援員の研修を通じて、石川県珠洲市の関係者と縁があり、飯尾良英学部長が代表して、同市の避難所に支援物資を届けました。



被災者した石川県珠洲市の様子(写真提供・飯尾良英学部長)



現代福祉マネジメント講座 現実を知る機会に

福祉現場でのリアルで先進的な経営の事例を聞く「現代福祉マネジメント講座」。第3回は認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之さんが、「災害と福祉—能登半島地震の現実を踏まえて—」と題して講演しました。栗田さんは、能登半島地震の被災地支援を続けています。発災直後から今日までの被災地の様子について、スライドを使いながら、支援で大切なことを伝えました。人間福祉学科2年の瀬川侑加さんは「被災された方のニーズはそれぞれ違うため、個々で相談に乗り、意見を聞く必要があると感じた。今後のボランティア活動をしていく上で、それらを踏まえ、的確な支援をしていくことが求められていると思う」と振り返りました。



将来の介護福祉士が災害を疑似体験



短期大学部社会福祉学科では、高野見伸教授がゼミ活動の一環として、仮想現実(VR)や模型の実験を交えた防災講座を開き、介護福祉士を目指す学生が災害の備えを学びました。

講座では、防災啓発に取り組む一般社団法人「中部地域づくり協会」の犬飼一博・地域づくり技術研究所長と研究員の神谷政人さんが講師を務めました。

VR体験では、ゴーグルとヘッドホンを装着。大雨で氾濫し、玄関から浸水する状況下で、避難行動を判断する体験型の映像を視聴しました。実験では、台風時の高潮を疑似再現する模型を使い、気圧が下がり水面が上がる仕組みを学びました。その中で、神谷さんは、東日本大震災を例に、津波が発生する仕組みやハザードマップの重要性を示しました。

犬飼所長は「自分がどこに住んでいるか、どこに避難すればよいか、普段から考えることが重要」と話し、高野教授は「学生は将来、介護現場で支援する側になるため、有事の際、冷静に対処できることが求められている。まずは知識を身につけられたら」と語りました。



普通救命講習を受講 目の前の命を救う

人間福祉学科の宮嶋淳ゼミナルは、関市の消防署の協力の下、普通救命講習を受講。実技試験に合格し、修了証を手に入れました。同講習は、消防本部によって行われている応急処置技能講習の一つ。心肺蘇生法をはじめ、AEDを用いた除細動、気道異物除去や止血法などの応急手当を学びました。消防士や警察官をめざす学生が多く、卒業後の仕事と将来のキャリアを見据えた取り組みとなりました。

留学生のキャンパスライフ

国際社会で通用する人材を育て、交流の拠点に――

本学は、海外からの留学生・研究生を受け入れ、国際交流活動を推進しています。国際社会で通用する人材を育て、世界に送り出すことを目指しています。

岐阜の文化「郡上おどり」をキャンパスで体験

L.E.A.P. Plaza国際交流活動として、留学生が地域の文化に触れたり、日本人学生と交流したりする機会を積極的に設けています。その一環として、国の重要無形民俗文化財で、風流踊の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されている「郡上踊」を関キャンパスで体験しました。当日は、郡上おどり保存会のメンバーを招きました。留学生らは、お囃子を堪能しながら共に輪を作り、約1時間に渡って踊りました。また、徹夜おどりで警備にあっている郡上警察署員も加わり、県警のマスコットキャラクターも登場して賑やかに行われました。参加した留学生からは「楽しかった。チャンスがあれば郡上で踊りたい」「この伝統がずっと残ってほしい」などの声が聞かれました。



イエロー・エンジェル奨学金 夢の実現を後押し

本学に通う留学生は、「カレーハウスCoCo壱番屋」創業者で本学の客員教授の宗次徳二さんから多くの支援を受けています。そのうち、宗次さんが理事長を務めるNPO法人イエロー・エンジェルの支援で、「中部学院大学イエロー・エンジェル奨学金制度」を導入し、学生の夢の実現を支援しています。ミャンマーからの留学生で社会福祉学科のカインカンツョさんは「1年後の介護福祉士の試験合格を目指して努力します」と宗次さんにお礼の言葉を伝えました。



人間福祉学科「留学生交流会」で親ぼくを深める

人間福祉学科では毎年、留学生交流会を開催しています。今年の交流会では、シュウ・ショウさん、ヴァー・ティ・トウエト・ニュンさん、チョウ・シユさんの3名の進行で進められました。留学生は1人ずつ日本語で自己紹介した後、ビンゴゲームやグループ対抗じゃんけんゲームで盛り上がり、親ぼくを深めました。茶話会では、学年を超えて情報交換が行われ、学生生活の不安や疑問の解決につながりました。



岐阜県警「やさしい日本語」研修会に参加

岐阜県警国際捜査課で開かれた「やさしい日本語」研修会に、ミャンマーとネパール出身の留学生が招かれました。やさしい日本語は、例えば「記入して」を「書いて」と言い換えるというように、母国語が日本語でない外国人にも伝わりやすいように配慮した言葉づかい。研修会では、若手警察官が「おうちはどこですか」「いつなくしましたか」などやさしい日本語で質問しながら、遺失届を記入する練習をしました。

■ 前期のトピックス



幼児教育学科で初めて留学生が入学



入学式で社会福祉学科2年のミャンマーからの留学生が手話サークルのメンバーとして手話通訳



別科に通うネパールからの留学生が、ブッダの誕生日に民族衣装を着て祝福



日本語能力試験N1やN2の取得を目指して勉強中



「Spring game time with Jordan」開催

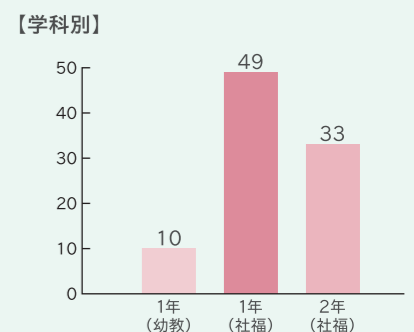
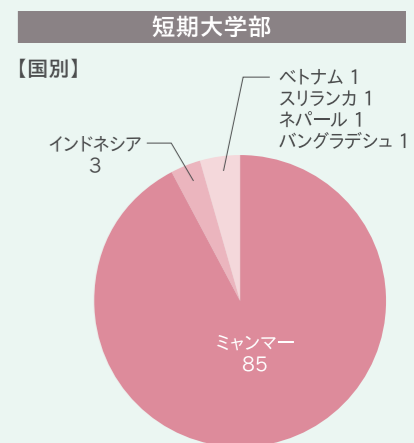
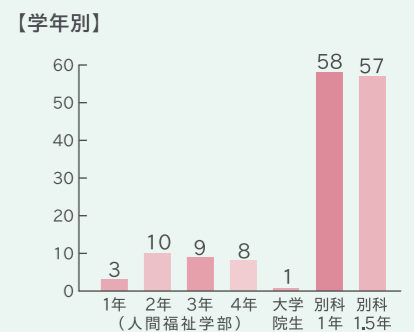
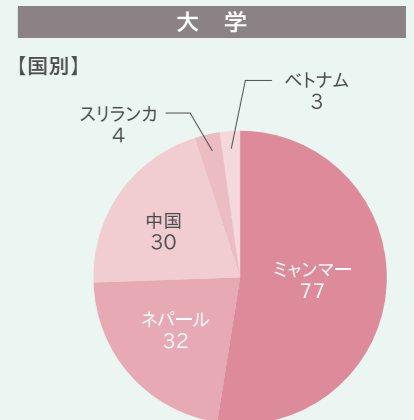
■ 後期の予定

- 岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会
- クリスマス礼拝(母国語を披露)
- チャペルアワー(スピーチ)
- 留学生交流会
- L.E.A.P Plaza企画 スポーツ交流会
- たのしみん祭(模擬店・ステージ)
- スピーチ発表会

留学生の現状

(2024年5月1日現在)

大学	短期大学部	計
146	92	238



キラッと輝く中部学院生

寺澤紗良選手(スポーツ③) 学生ナンバーワンに輝く 次の目標は全日本選手権 制覇

「第68回全日本学生空手道選手権大会」が7月、兵庫県姫路市の中央体育館で開かれ、スポーツ健康科学部3年の寺澤紗良選手(済美高校出身)が女子個人組手で優勝を果たしました。また、8月には「第3回全日本空手道体重別選手権大会」の女子個人組手-68kgでも優勝を飾りました。今回は、空手道の大学日本一に輝いた試合を振り返りながら、今後の目標などを聞きました。

—大学生No.1になりましたね。

高校まで最高でも2番しか取れず、悔いが残っていました。いま所属している大学4年間でしか取ることができないタイトルを取ることができてうれしく思います。

—国体や世界でも優勝しましたが、今回の優勝の意義は。

大学のチャンピオンを決める大会での優勝は格別です。全日本学生ではどこまで行っても挑戦者だったので、本当に自分の力を出し切ろうという思いが強かったです。自分が尊敬している選手もたくさん出場していて、さらに参加者も多いという密度の濃い大会で勝つことができ、本当にうれしいです。

—決勝の舞台は？

会場のだ真ん中のコートで試合するという気持ち良さが全然違いました。会場全体が注目する中で、「観客を沸かされるような、心を動かせるような試合をしたい」とずっと思いながら、試合に臨みました。ワクワク感もありました。

—決勝を振り返って。

対戦した釜つばさ選手(同志社大)は同期であり、友達であり、良きライバル。これまで中学や高校の全国大会の決勝で対戦し、いずれも敗れました。大学では初めての対戦で、トーナメント表を見た時に、当たるなら決勝というのも分かっていました。しかも、彼女は前年

の覇者であり、ずっとベンジしたいと思っていたので、良い結果を残せて良かったです。

—試合内容も安定していました。

大会を通じて、落ち着いて冷静に戦えていたと思います。最初に点を取られても焦ることなく、「絶対に取り返せる」という気持ちで戦えました。「一番の防御は攻めること」という言葉があるように、最後まで守らずに積極的に攻めにいき、戦い切るということを心においていました。その結果、思い切った技や自分の得意技を数多く出せたと思います。



試合を終え、昨年の覇者・釜つばさ選手と健闘をたたえ合う寺澤選手



寺澤 紗良 さん
(てらざわ・さら)

2003(平成15)年生まれ。愛知県一宮出身。小学3年の時にスポーツを始めようとする近くの道場に足を運んだのがきっかけで空手を始める。済美高校では、2年次に全国選抜大会で個人、団体共に準優勝。3年次にはインターハイで個人準優勝。2022年4月に本学スポーツ健康科学部入学。168cmの長身で、足のリーチを生かした「けり技」や「刻み突き」を得意とする。相手が間合いに入らないように自分のペースで試合を優位に進めるのに定評がある。座右の銘は「楽戦必勝」。試合に臨めることに感謝しつつ、楽しく試合をするをモットーにしている。「世界カデット・ジュニア&アンダー21選手権」アンダー21女子組手68kg超級優勝(2022年)。「アジアカデット・ジュニア&アンダー21選手権」連覇(2022・23)。国体成年女子組手優勝(2023)。全日本強化選手。

—試合の2日前には、けがをしましたが、その影響は？

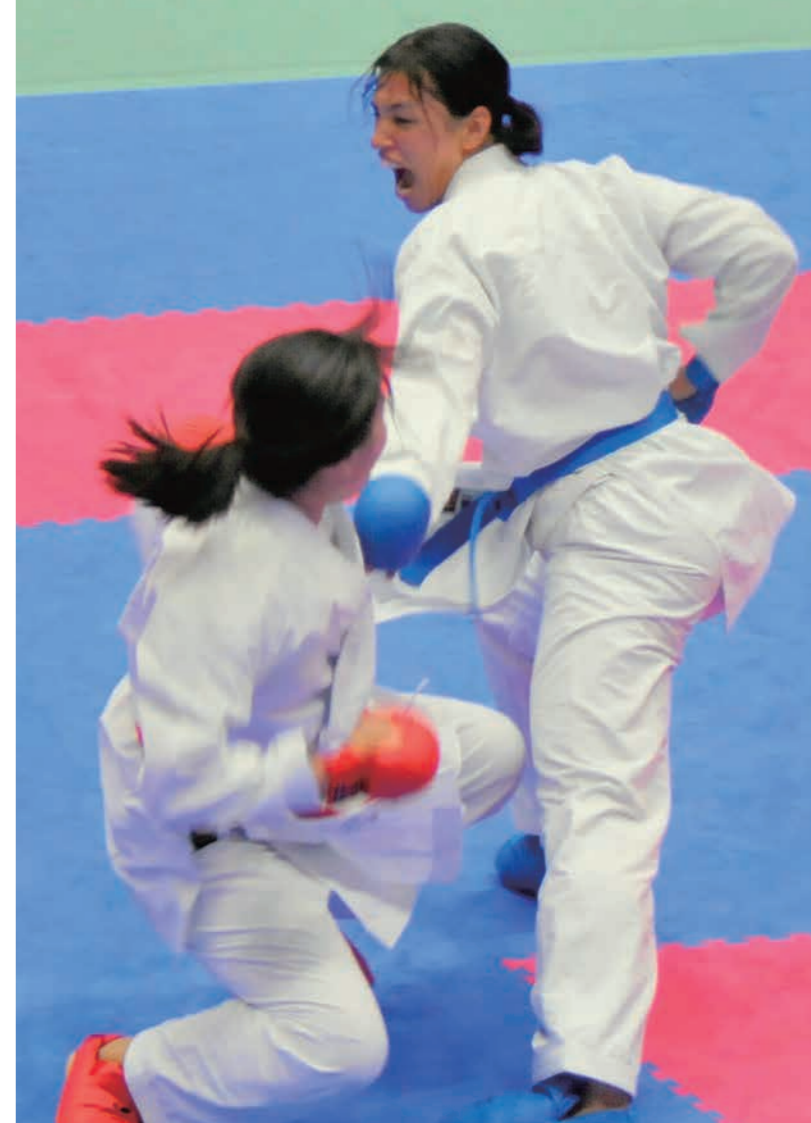
調整練習中に右ひざを痛めてしまいました。「試合に出られるのか」「試合でどれだけ戦えるのか」ととても不安な気持ちになりました。痛みも伴い、準備万端という状態ではありませんでした。精神的にもきつい状況でしたが、アドレナリンとテーピングで、「今のベストを尽くす」という思いで臨みました。結果的に、試合で気負うこともなく、臨めました。

—メンタル面はどのように調整しましたか？

決勝まで7試合もあり、体の疲労もどんどん溜まっていき、心と体を落ち着かせる時間も短くなり、焦る気持ちも出てきましたが、「もうやるしかない」と吹っ切り、「これまでやってきたから大丈夫、大丈夫」と独り言のように言い聞かせていました。気持ちを落ち着かせるようなコントロールができていました。その結果、相手の動きがいつもよりもよく見え、駆け引きができ、自分のペースに持っていくことができていたと思います。

—今回の優勝で得られた収穫は？

冷静に試合すること、楽しんで試合をするということができていました。自分の動きができない試合は、不安を先に感じたまま始まってしまうことが多くあり、最終的に楽しく試合ができませんでした。今回は、会場の雰囲気にもまれるのではなく、自分の力に変えることができました。どんな状況でも、同じ気持ちで試合に臨めるようにしたいです。また、尊敬している強い選手や試合を見ている多くの人が、私の技などを見て、褒めてくれたり、心が動いたりするような試合をしていきたいです。



終始果敢に攻め続けた寺澤選手(決勝より)

—今後の目標は。

まだ取れていないタイトルもあるので、これまでと変わらず、「挑戦者」という気持ちを忘れず、楽しんで試合に臨みたいです。「全部勝つ」という気持ちで、1戦1戦、大切に戦っていきたいと思います。具体的には、大学としては11月の「全日本大学選手権」(団体戦)で中部学院の名前を胸につけて、良い成績を残せるように日々の練習を頑張っていきたいです。個人では、空手界のトップを決める「全日本選手権」(12月・日本武道館)で自分の組手ができるようにしたいです。そのほか、国体も成年女子組手で連覇がかかっているため結果を出したいです。



3部門に9名が全日本学生に出場

全日本学生選手権大会では、本学から寺澤紗良選手をはじめ、男子形、女子形、女子組手の3部門に計9名が出場しました。

■ 出場選手

(カッコ内の丸数字のみ=スポーツ健康科学部の学年/出身高校 ※国民スポーツ大会出場選手)

【女子形】中路陽沙未(③/岐阜・済美) 江口紗颯(①/同)
【男子形】杉山優希(④/東海大学付属静岡翔洋) 野村飛翔(②/山口・高水※) 平田海翔(②/愛媛・松山中央※) 【女子組手】寺澤紗良(③/岐阜・済美※) 伊熊遥花(同) 齊田乃愛(②/京都・華頂女子) 荒木柚乃(教育①/岐阜・済美※)



東京五輪・銀メダリスト 清水希容氏(左)と時岡由佳コーチ

東京五輪・銀メダリスト 清水希容氏が外部指導員に

本学空手道部(監督 若井敦子)ならびに済美高等学校空手道部は、時岡由佳コーチの産休に伴い、東京五輪・日本代表で空手女子形銀メダリストの清水希容氏(ミキハウス所属)を外部指導員に委託することを決めました。

今回の委託に至った経緯は、時岡コーチと清水氏が高校の先輩・後輩の関係であり、時岡コーチの産休と清水氏の現役引退が重なったことが挙げられます。引退を機に指導者への道を歩き始めた清水氏にとって絶好の機会となります。

清水 希容 氏 (しみず・きょう)

1993年12月生まれ、大阪府吹田市出身。ミキハウス所属。関西大学文学部卒業。世界空手道選手権大会・個人形で、2014・16年と2連覇。全日本空手道選手権大会では、13年から19年まで7連覇を達成。2020年の東京五輪・女子形では銀メダルを獲得。今年5月の西日本地区大会の特別演武をもって競技を引退。30歳。

CLUB & CIRCLE

硬式野球部 3季連続全国大会出場 2年連続8強まであと一歩

硬式野球部は、6月に明治神宮野球場などで開かれた「全日本大学野球選手権」に2年連続4度目の出場を果たしました。

同選手権への出場をかけた「東海地区大学野球リーグ春季選手権大会」では、初戦の皇学館大(三重)に勝利すると、優勝決定戦となった日大国際関係学部(静岡)には劇的なサヨナラ勝ちを収め、全国切符を手に入れました。全国大会は3季連続出場となり、創部以来初の快挙。

同選手権の1回戦は、東海大九州キャンパス(九州地区南部)と対戦しました。4回に2点を入れて試合を優位に進めました。終盤に詰め寄られましたが、3-2で逃げ切り、昨年に続いて初戦を突破しました。2回戦は中京大(愛知)と対戦。4回に先制された3点本塁打が決勝点となり、2年連続ベスト8進出まであと一歩及びませんでした。



剣道部 全日本学生選手権 4年連続出場

剣道の全日本学生選手権が6月、東京・武蔵野の森総合スポーツプラザで開かれ、本学からは、藤田仁平選手(スポーツ③)／高山西高校出身)と石原共晟選手(同／京都・東山高校出身)が出場しました。結果は共に初戦敗退でしたが、両選手は全日本学生剣道東西対抗試合にも出場しました。これからの活躍に期待が高まります。



吹奏楽部 吹奏楽コンクール東海大会で金賞 全日本まであと一歩

吹奏楽コンクール岐阜県大会が8月、羽島市の不二羽島文化センターで行われ、大学の部に出場した吹奏楽部は、金賞を受賞し、東海大会への出場を決めました。課題曲は行進曲『勇気の旗を掲げて』、自由曲は、交響曲第2番『キリストの受難』。東海大会は9月8日、静岡市清水文化会館で行われ、金賞を受賞しましたが、全日本コンクールには一歩及びませんでした。



ゴルフ部 全国大学対抗 男子6位

ゴルフ部は、第61回全国大学対抗戦(6月／北海道・苫小牧ゴルフリゾート72 エミナゴルフクラブ)に12年連続12度目の出場を果たしました。結果は16大学中6位でした。

個人では、清水大翔選手(スポーツ④)／新潟・開志国際高校出身)がプロトーナメントの「中日クラウンズ」(5月・名古屋ゴルフ倶楽部和合)に出場(結果は予選落ち)。永田丞選手(同③)／美濃加茂高校出身)は中部学生ゴルフ選手権(8月／愛知県・中日カントリークラブ)で2度目の優勝を飾りました。

第60回日本女子学生ゴルフ選手権競技(8月／兵庫県・加古川ゴルフ倶楽部)においては、池戸梨緒選手(同③)／岐阜聖徳学園高校出身)が8アンダーの好成績で準優勝を果たしました。

今後の予定は、佐賀県で開かれる国民スポーツ大会には、女子の海江田乃愛選手(同①)／長野・佐久長聖)をはじめ、5名が出場します。また、常陸宮杯全日本大学選手権ならびに常陸宮妃杯全日本女子大学選手権(11月／石川県・片山津ゴルフ倶楽部)に男女とも3年連続3度目の出場を決めました。



全国大学対抗戦に出場したゴルフ部メンバー＝北海道、苫小牧ゴルフリゾート72 エミナゴルフクラブ

■全国大学対抗戦出場選手 (かっこ内の丸数字はスポーツ健康科学部の学年、出身高校、※は国民スポーツ大会出場選手)

河邊匠(④)／広島・瀬戸内) 清水大翔(④)／新潟・開志国際※) 永田丞(③)／岐阜・美濃加茂※) 新井龍紀(②)／愛知・中部大第一※) 益田航(②)／福井工業大付属福井※) 森虹陽(②)／三重・メリノール)

速報! プロテストに3名が合格

2024年の日本プロゴルフ協会資格認定プロテストが行われ、清水選手が6位タイで現役合格しました。また、スポーツ健康科学部卒業生の木本大志選手(2021年度)が17位タイ、棚町駿選手(2020年度)が21位タイで合格。本学ゴルフ部出身のプロゴルファーは22名となりました。

荒川プロが卒業 さらなる飛躍に期待

在学中にプロ資格を取得し、プロとして活動している荒川怜郁選手が今年3月、スポーツ健康科学部を卒業しました。今年度は、ダイキンオーキッドレディストーナメント(2月・琉球ゴルフ倶楽部)9位タイなどの成績を残しています。

バスケットボール部

男女ともベスト8まであと一歩

第62回東海学生バスケットボール大会が4月から5月にかけて、トーナメント方式で争われました。昨年ベスト8の女子は3回戦から登場。初戦の静岡産業大に59-63の4点差で惜敗しました。男子は初戦の愛知教育大、2回戦で名古屋外国語大を下し、3回戦までこまを進めましたが、浜松学院大Aに敗れ、ベスト8進出まであと一歩でした。

バレーボール部

女子 初の1部から降格 男子は2部残留

東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会で、1部の女子バレーボール部は8チーム中最下位(7戦全敗)となり、2部との入れ替え戦に進みました。愛知教育大(2部1位)にセットカウント0-3で敗れ、2部降格となりました。2部の男子バレーボール部は4勝3敗の3位でした。

保護者の皆さまへ

本学では建学の精神や大学の教育方針並びにキャリア支援などについて、保護者の皆さまにご理解いただくために毎年「後援会総会・保護者懇談会」を開催しております。

後援会総会・保護者懇談会を開催

6月1日(土)、関・各務原両キャンパスにおいて2024年度後援会総会・保護者懇談会を開催しました。終日対面での開催と一部オンラインを用いた個別懇談となりました。また、後援会総会・保護者懇談全体会の後に学科別説明会を行いました。対面参加、オンライン参加合わせて、約130名の保護者の皆さまに参加していただきました。

▶ 後援会総会

最初に、好評をいただいているミニチャペル・アワーを開催しました。短期大学部八木橋康広宗教主事の司会で始まり、同幼児教育学科の杉山祐子教授のパイプオルガンの演奏の後、高木総平宗教総主事による聖書の言葉、スピーチでは『見えぬものに目を注ぐ』と題して、「よりよく生きる」ことを目指してとメッセージが贈られました。

引き続き、櫻井賢治郎後援会長が『『生きる、を学ぶ』という本学の教育理念のもと、今の時代に相応しい医療・教育・健康・福祉の分野で活躍できる人材が育成されている』と話しました。国家試験の合格率や就職率の高さにも触れ、「卒業生があらゆる分野で活躍しており、『生きる』のスペシャリストとして社会で必要とされる人材となる子どもたちを、後援会は大学と連携しながら支援していく所存です」とあいさつしました。

続いて事務局から新役員の紹介、後援会役員会での決定事項などの報告がありました。新役員は次の皆さんです。1年間よろしく願いたします。

■ 会長／櫻井賢治郎 ■ 副会長／多和田敏朗 日下部美香 ■ 監事／山田美樹 杉山智穂 (敬称略)

▶ 保護者懇談全体会

後援会総会に引き続き、保護者懇談全体会を行いました。大学の江馬諭学長からは、学生の学びの成果や頑張り様子が伝えられました。国家試験の合格率の全国平均を上回るものが多いことや、教職等の資格取得、就職率の高いことに加え、部活動の全国大会への出場等活躍の様子など、文武両道を体現している学生の活躍する姿について話がありました。

短期大学部の片桐史恵学長からは、57年の歴史を誇る短大は、つながりを大切にきてきており、社会のさまざまな分野で活躍しているOBが現役学生を見守り支えてくれていることに触れつつ、全国一の国家試験合格率を誇る社会福祉学科をはじめ、どの学生も様々な社会課題解決にチャレンジできる次世代のリーダーたる資質を備えた人物として成長してくれていると話しました。

続いて、本学の誇りでもある高い就職率の原動力となっているキャリア支援について、キャリア支援センター事務局から報告がありました。



キャリア支援センターより



チャペル・アワーの様子



後援会長

江馬学長

学科別説明会・個別懇談

保護者懇談全体会終了後、参加者の皆様には学生食堂及び学生ホールにて昼食を取っていただき、午後の学科別説明会と個別懇談に参加していただきました。学科別説明会では教員が学修・就職活動・学生生活等のポイントを説明するとともに、個別相談では日頃の心配事、今後の学修・就職活動に関するアドバイスなど、さまざまな相談にお応えさせていただきました。

学科別説明会



人間福祉学科



スポーツ健康科学科

個別懇談会



理学療法学科



看護学科

〈参加者アンケート〉

関キャンパス・各務原キャンパスで行われた「後援会総会・保護者懇談会」では、毎年参加者アンケートを実施しております。アンケート結果の詳細は、10月5日に開催される第2回後援会役員会においてご報告させていただきます。また、来年度の会をより良いものにするために実施しておりますアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

アンケートの中でのご意見から

総会、懇談会の開催ありがとうございました。このような機会があったので、実際に大学キャンパスに来て見ることでも子どもの大学生活をイメージすることができました。大学について、学生生活、就職について知ることができて良かったです。普段教えていただいている先生の紹介(顔、想い)があると、なお良いと思いました。

多くの先生方と事務の方に一日かけて丁寧にご説明とご対応いただき、心より感謝しております。学業について、または就職については、なかなか子どもから聞いても分からないところが多かったのですが、説明会に参加してよく分かりました。個人的に不安なことなどもあったのですが、個別懇談で先生に丁寧に教えていただき、また一緒に考えてくださったので、本当に安心しました。このような温かい大学は他にはないんじゃないかともいつも思っています。心より感謝申し上げます。

個別懇談会にオンラインにて参加させていただきました。事前に質問内容を送らせていただきましたが、とても詳しく教えていただき理解することができました。質問以外にも大学での様子などお話しいただけ、子どもの様子がよく分かりました。

懇談会に参加させていただき、とても良かったです。ありがとうございました。

■ 学生数・出身地・下宿状況 (2024年4月現在)

大 学				
学生数	学 科	男	女	計
	人間福祉	195	186	381
	子ども教育	81	199	280
	理学療法	115	102	217
	看護	38	260	298
	スポーツ健康科	249	82	331
別 科	40	77	117	
合 計	718	906	1,624	

※通信教育部は含まない

出身地	岐阜県内	1054	64.9%
	東海地区	210	12.9%
	その他(海外含む)	360	22.2%

下宿状況	自宅生	1061	65.3%
	下宿生	563	34.7%

短期大学部				
学生数	学 科	男	女	計
	社会福祉	39	137	176
	幼児教育	15	137	152
	合 計	54	274	328

出身地	岐阜県内	224	68.3%
	東海地区	8	2.4%
	その他(海外含む)	96	29.3%

下宿状況	自宅生	208	63.4%
	下宿生	120	36.6%

東海地区：愛知県・三重県・静岡県

TOPICS

国際交流

タイ・国立シーナカリンウィロート大と締結 学術交流協定 共同研究など8分野で協力

短期大学部は、タイの国立シーナカリンウィロート大と学術交流協定を締結しました。

これまで、両大学では、教員の間で交流ならびに訪問を重ね、共同研究を行ってきました。昨年8月と今年1月には、同大の訪問団が本学を訪問。実習施設、附属桐が丘幼稚園などを見学し、交流を進めてきました。

近年、タイ王国では障がい児・者への支援、高齢者福祉への関心が高まっており、先進的な日本との情報交換を強く要望していました。そのため、幼児教育や社会福祉を専門領域とする本学が、同大と協定を締結したことにより、ASEAN地域での障がい児・者支援や高齢者支援の新しいモデルの開発・確立に貢献できると期待されます。

今後は、教員・学生の交流、共同研究活動、セミナーやワークショップ、学術会議への参加など8つの分野における協力を通じて相互の利益を図ります。



国試対策

理学療法士 保健師などで合格率100%達成 きめ細やかなサポートで現役合格を目指す

2023年度卒業生の国家試験では、介護福祉士などで合格率100%を記録しました。

このうち、看護リハビリテーション学部理学療法学科では、57人全員が理学療法士試験に合格を果しました。同学部看護学科では保健師で受験した16人全員が合格しました。福祉分野では、介護福祉士試験において、短期大学部社会福祉学科(留学生を除く)、人間福祉学部人間福祉学科(同)で合格率100%を達成。同学科では、精神保健福祉士でも全員が合格しました。そのほかの試験においても全国平均を上回る合格率をマークし、社会人としての第一歩を歩みだしました。

背景には、国家試験に向けた支援として、4年間を通してきめ細かいサポートが実施されています。国家試験対策講座や個別指導をはじめ、学生はチームを組み、互いに刺激し合う独自の試験対策で理解を高めるなど、現役合格を目指しています。



今後の予定

大学祭・第22回たのしみん祭・ホームカミングデー
10月19日(土)関キャンパス
第19回学びの森フェスティバル
11月3日(日・祝)各務原キャンパス、学びの森
中部学院 全国手話スピーチコンテスト
11月16日(土)各務原キャンパス
クリスマスツリー点灯式
11月25日(月)関キャンパス

クリスマス礼拝・祝会
12月23日(月)関キャンパス
年内授業終了日
12月23日(月)
年始通常授業開始日
1月6日(月)
後期定期試験日
1月20日(月)~24日(金)

各種表彰式・卒業礼拝
3月19日(水)関キャンパス
卒業式
3月20日(木・祝)各務原市プリニーの市民会館

揖斐川町

揖斐川町教育委員会と教育実習の受け入れで連携

中部学院大学と揖斐川町教育委員会は、教育実習や学校インターンシップの受け入れ、揖斐川町の教職員の資質向上研修について、連携協定を締結しました。江馬諭学長は「この地域から多くの学生が来ており、一緒に教員の育成に努めていきたい」と語りました。香田静夫教育長も双方の教育効果に期待を寄せました。



各務原市英語

英語交流会 "Let's Enjoy English" を開催

各務原市教育センターと共催で、"Let's Enjoy English"を各務原キャンパスで開催しました。今回は、市内の小学生約50名と教育学部3年生30名が一緒になり、英語で遊んだり、交流したりしました。「小学校英語」「小学校英語指導法」の授業の一環。学生は時間をかけて準備し、英語を練習して子どもたちを迎えました。



公開講座「現代マネジメント研究」

第一線で活躍の7名が登壇

各界の第一線で活躍している方々が講演する「現代マネジメント研究」。今年は7名の方々が登壇し、学生や市民にメッセージを伝えました。講師は次の皆さん。▶カレーハウスCoco吉番屋創業者 本学客員教授 宗次徳二氏▶関市長 山下清司氏▶岐阜県健康福祉部長 丹藤昌治氏▶十六フィナンシャルグループ・十六銀行 会長 村瀬幸雄氏▶株式会社十八楼取締役・長良川温泉女将会会長 伊藤知子氏▶ヴァイオリニスト・岐阜県音楽療法士・本学卒業生 濱島秀行氏▶岐阜県議会議員・本学空手道部監督 若井あつこ氏(各講師の講演内容はホームページにて)



地域連携

鮎の友釣りを通じて川に親しみを—

地域連携の一環として、関市上之保の津保川で、学生らが鮎の友釣りを体験しました。この体験会は、友釣りをきっかけに川に興味を持ってもらおうと、津保川漁業協同組合と企画。学生15名が参加し、竿を握り真剣に川面を見つめていました。「鮎はとてもさわやかで、いい匂いがした」などの声が聞かれました。



キャンピング

スポーツツーリズム キャンピングを体験

スポーツ健康科学部の3年生が、スポーツツーリズム演習の一環として、関市洞戸の高賀川でキャンピングに参加しました。キャンピングとは、川を下りながら滝や岩を渡り、自然の地形を楽しむアウトドアスポーツ。自然資源を活用した観光の魅力と可能性を体感しながら、地域活性化などについて学びました。



美濃と飛騨のふくし

連携市町村などから講師を迎えて開催

「美濃と飛騨のふくし」では、岐阜県(美濃・飛騨)の地域に対する関心を高め、地域の諸課題から学び、自らの役割を見つけること、さらに、これから進む職業領域において、地域社会に対する貢献を考えることができる人材になることを目標としています。講師は、県内でさまざまな活動を行っている市町村や団体などの方々です。



「美濃と飛騨のふくし」(全学共通科目)

“ふくし”は「よりよい暮らし」を意味しています。県内各地域が抱える課題を理解し、その解決策について考え、提案することにより、実践的な能力が身につく教科として、地域志向人材の育成を進めています。

告知

中部学院 全国手話スピーチコンテスト

大会名を「全国手話スピーチコンテスト」に変更し2年目を迎え、11月16日(土)に各務原キャンパスで開催します。コンテストは「手話スピーチ」「手話パフォーマンス」の2部門からなります。講師には、聴覚障がい者を対象にした国際スポーツ大会「デフリンピック」自転車競技のメダリスト・早瀬久美さんをお迎えします。日本代表として、3大会連続でメダル(銀1・銅2)を獲得。2025年に東京で開催される大会でのメダル獲得を目指して競技を続けています。また、日本で初めて、ろう者として薬剤師となったことでも知られています。観覧希望の場合は右記のQRコードからお申し込みください(観覧無料、要申込、10月31日締切、希望者多数の場合は先着順)。



早瀬久美さん

お申し込み



大学祭・たのしみん祭

中部学院大学、同短期大学部が主催。地域の方や近隣の学校、福祉施設、企業と共に作り上げるものと学生主体のもの融合したお祭りです。大学祭のテーマは「共創、仲間と力を合わせ成長し、共に作り上げる大学祭を目指しています。特別ゲストによるライブも開催予定しています(近日中に大学HPで公開)。



日時/10月19日(土) 9時~16時
場所/中部学院大学 関キャンパス
問い合わせ先/中部学院大学 学生課
(電話 0575-24-2214)

入場無料

学びの森フェスティバル

近くに公園があるなど恵まれた環境を生かし、地域住民の方々・各教育機関・施設・企業等、相互の理解や連携を一層深め、更には交流の体験を通して児童生徒をはじめ学生の貴重な学習機会とすることを目的としたお祭りです。小さなお子様からご年配の方まで楽しんでいただけるよう計画しています。当日は、各務原市の秋のイベントの「マーケット日和」との同時開催です。皆さま、ぜひご来場ください。



日時/11月3日(日) 10時~15時
場所/中部学院大学 各務原キャンパス・学びの森
問い合わせ先/中部学院大学 各務原事務課
(電話 058-375-3600)



中部学院大学
同短期大学部

関キャンパス 〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL 0575-24-2211
各務原キャンパス 〒504-0837 岐阜県各務原市那加翔田町30-1 TEL 058-375-3600

[大学院] 人間福祉学研究科 修士課程 博士課程(後期)

[大学] 人間福祉学部 人間福祉学科(社会福祉コース/精神保健福祉コース/介護支援コース/地域貢献コース)通信教育部
教育学部 子ども教育学科(小学校・中学校教諭コース/幼稚園教諭・保育士コース)
看護リハビリテーション学部 理学療法学科 看護学科

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科(スポーツ健康領域/保健体育科教育領域/障がい者スポーツ領域/スポーツマネジメント領域)

[短期大学部] 幼児教育学科(あそびすとコース/障がい児支援コース/子育て支援コース)
社会福祉学科(介護福祉コース/ビジネスデザインコース/医療事務コース)